

登場人物

● 主人公…李徴りてい

出身地「隴西ろうせい」

若くして超難関の資格試験「科擧こうきょ」(進士)に合格。

● 豆知識

進士は、出自・家庭環境が良く、幼いころから勉強していないと合格は難しい。試験は政治的な知識はもちろんのこと、漢詩・文章が作れないと合格できない。

役職「江南尉こうなんのい」…江南地方の軍事や警察などを司る官。

性格「狷介けんか」…片意地で他人と相いれない。

「自ら待む所頗る厚くすこぶ」…プライドが高い。

● 李徴の親友「袁愔えんきん」

時代

「天宝」の末年…唐の時代。

● 豆知識

七五五年、辺境防衛の任に当たる節度使が地方軍閥化し、「安史の乱あんしのらん」が起こった。28歳で即位した玄宗皇帝が「楊貴妃ようきき(楊玉環ようぎょくわん)」との愛欲に溺れ、政治の腐敗が進んだ。唐の時代に活躍した詩人…杜甫・李白・王維など。(p. 427参照)

あらすじ

李徴は、「役人」の生活に満足できず、「詩家」として名を遺のこすことを夢見て辞職するが、文名はあがらず、再就職をする。プライドの高い李徴は、発狂し「虎」に姿を変える。「虎」と化した李徴に再会したかつての親友「袁愔」は、李徴自身から、「詩に対する自意識」が心中の「虎」となり、やがて体も「虎」となってしまったいきさつを聞く。

● 中島敦について (一九〇九(明治四二年)～一九四二(昭和一七年)年)

東京四谷よつやに生まれる。中島家は「漢学者」の家系で、幼いころから漢学に親しみ、中国古典に精通する。両親の別居に伴い、母と離別後、父について奈良・浜松・ソウルなどを転々とする。大正一五年、「第一高等学校」文科に入学。肋膜炎ろくまくえんにかかり一年間休学。この頃から生涯の持病となる「喘息」の発作に苦しむようになる。昭和五年、「東京帝国」大学「国文」科に入学、同八年に卒業後、横浜高等女学校に就職。教職に就きながら執筆を続け、昭和九年、雑誌「中央公論」の懸賞に応募し、『虎狩とらがり』が選外佳作となる。昭和十一年には、中国各地を旅行。一六年には教職を退職し、南洋庁書記官として「パラオ」に赴任するが、喘息の発作と風土病に苦しむ。昭和十七年、「パラオ」に赴任中、深田久弥ふかだひさゆの紹介で短編小説『古譚こたん』(『山月記』、『文字禍』)が発表され文壇に登場した。帰国後、ステイブソンふかだひさゆの晩年を描いた『光と風と夢』を発表し広く認められたが、喘息が悪化し三三歳の若さで亡くなった。没後、昭和十八年に『弟子』、『李陵りりょう』、『昭和二二年に『わが西遊記さいゆうき』が遺稿として発表された。

